

外国語科

昨年度の取り組みと成果と課題

【 成果 】

- ・導入時、今月の歌を歌ったり踊ったりする活動により、児童は楽しみながら自然と簡単なフレーズを発話することができていた。その後の授業の意欲を高めることにもつながっていた。
- ・英語でフレーズを何度も繰り返して練習したことで、積極的に友達に質問したり質問に答えたりすることができるようになってきた。
- ・給食や休み時間に外国語教育指導員と関わる時間が増えたため、英語を身近に感じることができた。

【 課題 】

- ・「話すこと」に関しては、外国語教育指導員と連携し、ジェスチャーをしたりゆっくり話したりすることで、英語を理解しようとする意欲を高め、今までよりも発話、発声する機会を増やしたりする。
- ・「書くこと」に関しては児童の学力差が大きいため、ローマ字表を活用したり音声での発話と結び付けながら書かせたりする。
- ・ワークシートや副教材等を用いて、文字を表現する活動を適宜取り入れ、相手や目的に応じて「話すこと」ができるようにしていく。
- ・振り返り活動を通して学習状況を捉え、次時につなげる学習を積み重ねる。

大田区学習効果測定の結果分析 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第6学年	△	△	△

学習状況の分析

○知識・技能

- ・平均正答率が、目標値を上回ることができた。身近で簡単な語句を聞き、その意味を理解する問題に関して、ほとんどの設問で目標値を上回っている。
- ・一方、身近で簡単な事柄についての対話を聞き内容を理解する問題や活字体の小文字を書く問題では、目標値を下回った。

○思考・判断・表現

- ・平均正答率が、目標値を上回ることができた。日常生活に関する対話を聞き、目的や場面、状況などを推測する問題では、ほとんどの設問で目標値を上回っている。対話の流れから、適切な場所を判断して英文で書く問題でも、ほとんどの設問で目標値を上回っている。5年生の学習において、位置関係を考え、それを表す語を判断する知識を身に付けてきたことが要因である。
- ・一方、例文を参考にしながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて英作文を書く問題では、目標値を下回った。

○主体的に取り組む態度

- ・例文を参考にしながら、自分の日課を時刻とともに書く問題について、目標値を上回っている設問と目標値と同程度の設問があった。
- ・日頃の学習で培った知識や技能、思考力、判断力、表現力が問われた「書く」問題に課題が見られる。各単元の言語活動の中に位置付けていくことが必要である。

授業改善のポイント（観点別）

【 高学年 】

○知識・技能

- ・授業で視覚的教材を活用して意欲的に単語の発話の練習を継続的に行う。
- ・授業中や家庭学習などで、アルファベット（間違いやすい文字を重点的に）を書いたり身近な対話表現を使う場面を増やしたりして、定着を図る。
- ・授業の最後に、学習の振り返りを行い、「1時間の中で何ができるようになったか」、学習の成果が残せるようにする。

○思考・判断・表現

- ・単元や1単位時間の導入時に明確な課題を提示し、目的意識を持って聞いたり、話したりする学習をする。
- ・学習の中で、目的をもって聞いたり、話の先を考えながら聞いたりする活動を常に取り入れていることで、対話内容を理解する力を付ける。
- ・簡単な語句（park等）や会話表現の型（I want to study science.等）を理解し、見本となる文型に合わせて簡単な英文を書く力を身に付ける。
- ・書いて友達に伝える活動を多く取り入れ、表現する機会を増やしていく。

○主体的に取り組む態度

- ・東京グローバルゲートウェイやイングリッシュキャラバンなど、留学生や外国人と交流する機会を設け、積極的に英語を使おうとする意欲を高める。
- ・主体的に書く力を付けるために、各単元で出てくる語句や会話表現を使って書く活動を取り入れ、継続的に指導する。
- ・ICT機器を活用し、絵や写真、映像など、具体的な資料とともに、日本と外国との生活・習慣・文化などの違いを知らせ、多様なものの見方や考え方があることに気付かせる。更に、チャンツや歌などを効果的に活用し、フレーズの定着を図る。
- ・単元の言語活動を通して、相手意識や目的意識をもって活動できるようにし、より相手や目的に合った表現方法を用いることができるようにする。
- ・繰り返し学習する中で、前回まで言えなかった英語表現を修正して身に付けさせたり、相手を変えて、粘り強く、学習に取り組めたりできるようにする。